

製本のススメ

Vol. 123

梅雨もあけて、毎日暑いですね。熱中症の危険も伴うほど屋内でも暑さ対策が必要です。十分に水分補給・なるべく早寝など心がけて、夏休みまでがんばりましょう！

今回は**いろいろな紙材料の複雑な製本**の話し

カタログや記念誌など、一冊の中に何種かの用紙が入ることはよくあります。この際におこる不具合について、いくつか紹介をいたします。

紙の厚みの不統一

紙は吸湿性の高い天然繊維が主原料ですので、常に吸脱水による伸縮をくりかえしますが、これを繰り返しているうちに安定した状態になります。しかし輪転やコピーなどインキを乾燥するために急激な加熱が行われると大きく伸縮します。紙の種類(塗工紙・非塗工紙)や連量によってもその伸縮量は変わりますので下記の事柄には注意をしてください。

① オチヨコと波打ち

仕上げ直後の本を思い浮かべてください。三方の切り口は外気に触れますが、中央部分は外気に触れません。このため外気に触れる部分が伸縮し、乾燥が強いとオチヨコ状態になり、逆に湿気ると波打ちが発生します。製本直後にはこのような現象が起こりますが、これらの現象は乾季と雨季のシーズンを超えれば、自然と解消します。しかし納品時にはクレームの対象になり易く注意が必要です。

② 小口の不揃い

雑誌や通販のカタログなどによく見られる現象ですが、輪転と枚葉印刷が混載すると起こりやすく、まるで仕上げ断裁をしていないのかと思えるほどです。出来るならば印刷後に十分な調湿をしてから製本が好ましいのですが、現実的には難しく「小口が不揃いだ」という苦情が持ち込まれますが、製本では如何ともしがたく小口をもう一度小さく断裁しなおすしかありません。紙の伸縮は事前の企画段階から検討しておかなくてはなりませんね。



Tea break

ビールに枝豆 最高ですね。ところでご家庭で枝豆をゆでる時は、皆さんお湯に枝豆入れていませんか？先日 枝豆生産者の方に聞きましたら、まずサヤの両端をカットして、あとは鍋にいれて 塩を適量入れ水から火にかけてしまうそうです。このサヤの両端をカットって、ポイント高いですね！塩味が良くしみこむそうです。なるほど～～

弊社ホームページはこちら www.isekiseihon.com

by (株) 井関製本